音 楽 科 学 習 指 導 案

指導者　岡　本　　礼

１　日　時　　平成２４年７月６日（金）　１校時
２　学　級　　１年１組　男子１６名　女子　１６名　合計３２名　北校舎２階第１音楽室
３　題材名　　「日本の伝統音楽のよさを味わおう」
　　～雅楽「越天楽」～
４　題材について
　題材は以下をもとに設定する。

Ｂ鑑賞（１）ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて，鑑賞すること。 〔共通事項ア〕　音色，旋律，テクスチュア

　本題材では，雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色，旋律，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，要素や構造と曲想との関わりを感じ取るとともに，雅楽「越天楽」の音楽の特徴を背景となる文化・歴史と関連づけて聴き，主体的に解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わうことをねらいとする。
　生徒達は，小学校で「越天楽今様」の学習に取り組み，歌ったり，音階の特徴について話し合ったりして，日本古来の音楽の特徴やよさを学習している。このことを生かして学習を進めたい。また，これまでの鑑賞の学習において，特に音色について「高い音，低い音」といった捉えのみになっていることが多く見受けられる。雅楽で使用されている楽器は，ふだん聞き慣れない楽器ばかりだが，それぞれの楽器の特徴的な音から多くのことを感じ取らせ，様々なイメージをふくらませて聴くことができるようにさせたい。次に，感受したことの根拠をうまく言葉で表せない，その反対に音楽の要素について知覚しているものの，そこから自分の心がどう動かされたかを説明できないという課題がある。
　そこで，この題材を通して，音色，旋律，テクスチュアを知覚させ，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受させながら，より深く音楽を味わう力を付けさせたい。また，このような音楽文化を生み出し，はぐくんできた文化的・社会的背景等と関連させて鑑賞させることで，日本の音楽に対する興味・関心を高めさせたい。
　そのために，第１時では小学校で学習した「越天楽今様」を歌ったり，雅楽「越天楽」の一部を聴取したりしながら，音楽の印象や気づいたことを発言させる。次に，この曲の出だしを演奏している龍笛について説明し，唱歌を唱える。このことから，龍笛の音色について全体でしっかりと捉えさせ，龍笛と比較して他の吹物(篳篥，笙）がどのような感じがするかを話し合わせる。そして，楽器が組み合わされて演奏された時，それぞれの楽器がどのような役割をもっているのか，また，楽器が組み合わされることによる音楽のよさや美しさは何かを考えさせながら，一つ一つの楽器の音色や，音の重なりの働きが生み出す特質や雰囲気について感受を深めさせていく。
　第２時では，雅楽「越天楽」の音楽の音の重なり方の特徴と，そのよさや美しさについて学習する。まず，演奏は龍笛から始まり，他の楽器が順に加わっていくことを説明する。そして，龍笛の唱歌を唱えてみながら，中心になるふしを確認する。実際の龍笛のふしが，最初に歌った唱歌より速度が遅かったり，拍の感覚が均等でなかったりすることも確認させる。そして，他の楽器がどのように加わってきたかを聴取する。理解深化では，楽器が加わってくる部分を知覚したことをもとにして，出だしの龍笛の部分，三鼓が入る部分，残りの吹物が入る部分についてどのような感じの違いや雰囲気があるかを話し合わせる。同じように，曲の終わりの部分についても音の重なり方にどのような変化があったかを捉えさせる。そして，これらのことから音楽にどのような特徴があるのかを考えさせたい。最後に自分が考えたことや友達の意見を意識しながら，全体を聴取させ，それぞれの楽器が，どのように音を重ねているかに着目し，そのことによって，全体として音楽にどのような特質や雰囲気が生み出されているかを話し合わせたい。
　第３時では，雅楽の文化的・社会的背景等について学習し，全体を通して鑑賞させる。第１時で話し合った，雅楽「越天楽」の音楽の印象や気づいたことが，音楽のどのような特徴から感じたものだったのかを振り返らせる。また，第２時で感じ取った，楽器が徐々に加わることについて視覚的にも捉えさせるために，映像を活用しながらグループごとに演奏を模倣させる。そして，これまで学習してきたことを基にして，雅楽「越天楽」の音楽のよさや美しさについて全体で交流させる。最後に映像で鑑賞させ，紹介文を書かせる。全体で交流したことを生かし，他者の感じ方や解釈も参考にして，雅楽「越天楽」や日本の音楽に対しての自分なりの解釈や，価値を考えたりしながら，雅楽「越天楽」の音楽のよさや美しさを味わわせたい。

５　指導と評価の計画(別紙)

6　本時の達成目標

音楽への関心・意欲・態度	「音の重なり方」と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。
鑑賞の能力	「音の重なり方」を知覚し，その働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 〈生徒の記述例〉 ・全ての楽器が入るところを少しずつずらしている。ずらしたり，間を取ることによって全ての楽器の音色を聴き取ることができる。 ・一つの音から始まって，どんどん音が増えている。流れるように続いていく。このことでだんだんと賑やかになっていくところがよさだと思う。

7　本時の指導の構想

（1）「教えて考えさせる授業」にかかわって

本時は，評価規準の「鑑賞の能力」の「①雅楽『越天楽』の音楽を形づくっている音色，リズム，旋律，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。」を主にねらったものである。

①【説明する】…「演奏は龍笛から始まり，他の楽器が順に加わっていること」を説明する。

②【理解の確認】…龍笛の唱歌を唱えながら主になる旋律を確かめる。唱歌を唱えながら，最初の約１分のところまでを聴き，どのように楽器が加わってきたかをグループでお互いに説明させ，「他の楽器が順に加わっていること」についての理解状況をモニターする。「龍笛から音楽が始まり，その後にいくつかの打楽器が加わる。そして，笙と篳篥が加わる」ことを全体で確認する。

③【理解深化】…「色々な楽器が一斉でなく，順に加わっていくことのよさや美しさを聴き取る」という理解深化課題に取り組ませる。「楽器が徐々に加わる」ことについての知覚・感受を深めるために，最初から約２分のところまでを聴取させながら，「龍笛で始まる部分」「三鼓が入る部分」「三管が全部入る部分」について，それぞれどのような感じがしたかを書いたり，話したりさせる。さらに，最後の約１分のところを聴取し，これまでとは反対に楽器が徐々に減っていくことを聴取させ，どのように感じたかを話し合わせる。最後に，全体を聴取させて，それぞれの楽器の音の重なり方から生まれる，よさや美しさは何かを話し合い，テクスチュアの働きが生み出す特質や雰囲気の知覚・感受を深化させたい。

④【自己評価活動】…各楽器の音色を知覚し，日本の伝統音楽を特徴付けている音と音とのかかわり合いという視点で音楽を聴いたことで新たに感じ取った音楽のよさや美しさを記述してほしい。

（2）「表現すること」にかかわって

本時で大切にしたい「表現する」活動は次の２点である。

１点目は，「理解の確認」で龍笛の唱歌を唱えながら，加わってくる楽器を説明する活動で，知覚したことを自分なりに音色を表しながら，説明できるかという点である。部分的に繰り返し聴取させることと，聴取したことをグループで確認させながら説明させることで不十分な理解を修正していきたい。

２点目は，「理解深化」の段階で，「龍笛で始まる部分」「三鼓が入る部分」「三管が全部入る部分」について，それぞれどのような感じがしたかをできるだけ多くの生徒に発言させながら話し合わせたい。この話し合いが基になって，雅楽「越天楽」の音楽に見られる，音の重なり方が生み出すよさや美しさが分かり，音楽の聴き方が変容すると考える。

８．本時の展開

段階	学　習　活　動	指導上の留意点	評価の観点・方法	教材・教具等
説明する5分	1　雅楽「越天楽」に使用される楽器について知る ・龍笛について復習する。 ・三管の他に、三鼓、両絃がある。 2　学習課題を把握する。	・龍笛のふしを唱歌させる。 ・三鼓，両絃の音色を確認させる。		・唱歌譜ﾀﾃ ・紙板書 **ＣＤ１’００** ・紙板書
	音の重なり方によって，音楽にどのようなよさや美しさがあるか聴き取ろう。			
理解の確認10分	3　龍笛の唱歌を唱えながら，最初の約１分のところまでを聴取し，どのように楽器が加わってきたかを聴き取り，加わり方を確認する。	・龍笛の唱歌を唱えさせる。 ・各楽器を聴き取らせる。 ・「龍笛から音楽が始まり，その後に打物が加わる。そして，笙と篳篥が加わり，両絃が加わる」ことを確認させる。		**ＣＤ４’３０** 紙板書 （唱歌譜ﾖｺ） **ＣＤ１’００** 紙板書 （楽器の順番）
理解深化 25分	4　部分ごとに音の重なり方がどのようになっているか聴取する。 ①「龍笛で始まる部分」「三鼓が入る部分」「三管が全部入る部分」について，それぞれどのような感じの違いがあるか，ワークシートに記述して，話し合う。 ②最後の約１分のところを聴取し，音の重なり方がどのように変化したか，このことからどのように感じたかについて話し合う。 5　考えたり，話し合ったりしたことを思い出しながら聴取し，４①，②で知覚・感受したことから，雅楽「越天楽」にどのようなよさや美しさを感じ取ったかワークシートに記述し話し合う。 6　学習課題に対して振り返り本時のまとめを確認する。	・最初から約２分のところ　までを２回聴取させる。 ・最後約１分の部分を３回聴取させる。 ・自分の考えを確かめながら聴いたり，友達の意見を意識して聴いたりさせる。 ・学習課題に対してのまとめを生徒の言葉を生かしながら行う。 **「龍笛に続いて，三鼓，三管，両絃と順番に楽器が加わっていく。また，終わりのところでは，徐々に楽器の数が減っていく。このことによって音楽に〇〇なよさや美しさが生まれることが分かる。」**	・ 板書していく。 5【鑑賞の能力】 楽器が徐々に加わったり，減ったりしていることによる音の重なり方について記述しており，このことから感じたことを発言したり，記述したりしている。 〈記述内容〉 Ａ：的確で具体的な記述 Ｃ：話し合いの中から共感できるものを見つけて，記述。	**ＣＤ５’００** **ＣＤ３’００** **ＣＤ４’３０**
自己評価活動10分	7　自己評価する。			・学習シート

- 良く聴いてみると様々な楽器が少しずつずれていたり，少しだけ重なったりしていることがわかりました。伝統音楽を聴く機会があったら，今日の聴き方を思い出して聴いてみたいです。
- 音が絶え間なく流れていることにより，ゆったりとした感じが出ることが分かった。
- 今日の学習で，雅楽「越天楽」には，ゆったりした上品なよさがあり，それは楽器の音色が徐々に重なっていったりしていることと関係しているのかなと考えることができた。

１年　音　　楽	題材名　日本の伝統音楽のよさを味わおう～雅楽「越天楽」～	総時間　３時間扱い

学習指導要領の指導事項	題材の目標
Ｂ鑑賞 ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ　音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて，鑑賞すること。 〔共通事項〕　音色，旋律，テクスチュア	雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色，旋律，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，要素や構造と曲想との関わりを感じ取るとともに，雅楽「越天楽」の音楽の特徴を背景となる文化・歴史と関連づけて聴き，主体的に解釈したり価値を考えたりして，よさや美しさを味わう。

題材の評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	①雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色，旋律，テクスチュアと曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②雅楽「越天楽」の音楽の特徴と背景となる文化・歴史との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。			①雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色，リズム，旋律，テクスチュアを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ②知覚・感受しながら，雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを感じ取って解釈したり価値を考えたりするとともに，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて鑑賞し，言葉で説明するなどして，日本の伝統音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

時	主な学習活動	おおむね満足（Ｂ）	十分満足（Ａ）	評　価　事　例
1	・三管の名称と音色を確認する。 ・雅楽「越天楽」を聴いて，曲の中から三管を聴き取って，それぞれの音色が生み出す特質や雰囲気について知覚・感受したことを書いたり，話し合ったりする。	関①　雅楽「越天楽」の音楽を形づくっている音色と曲想との関わりに関心をもち，気付いたことを書いたり，話し合ったりする学習に主体的に取り組もうとしている。 鑑①　雅楽「越天楽」の三管の音色について記述し，それぞれの音色から感じたことを曲想と関わらせながら記述している。	・三管の音色について，自分が感じ取ったことや考えたことを他者に伝えようと発言をしたり，他者の発言を集中して聞き，それを基に自分との共通点や相違点を述べたり，書いたりして話し合いの学習を深めようとしている状況が見られるとともに自分なりに捉えたことを具体的に書くなど，主体的に学習に取り組んでいることが読み取れる。 ・三管の音色を工夫してことばで記述し，それと雅楽「越天楽」の曲想とのかかわりについて的確に発言，記述し，それらのことから自分がどのように感じたかについて具体的に記述している。	**5　楽器が一斉に始まらず，徐々に入ってくることや，減っていくことのよさや美しさは何かを考える場面　（鑑賞の能力①　学習シート）** 楽器の入り方や，音の重なり方を意識して聴き，このことからどのような特質や雰囲気があるかについて記述している内容を評価対象とする。 ■おおむね満足（Ｂ） 全ての楽器が少しずつ入るところをずらしている。ずらしたり、間を取ることによって楽器の音色を聴き取ることができる。また、流れるような感じがしたし、だんだんと賑やかになっていくところがよさだと思う。 音の重なり方の特徴を知覚し、そのことが生み出す特質や雰囲気を言葉で表している。 ■十分満足（Ａ） 龍笛に続いて、鞨鼓、鉦鼓、楽太鼓と加わり、笙と篳篥が加わる。一定のリズムで入ってくる楽器もあった。そのことで、じょじょに盛り上がる。音楽に波があり，ゆったりした上品な感じ。小さい音でも、大きい音の間に入ることで，音の質や音色が際立つ。 音の重なり方の特徴を知覚して的確に説明し、そのことが生み出す特質や雰囲気について具体体に書いている。 【Ｃ：指導の手だて】 全体で話し合ったことから，自分の考えに近いものを選び，記入するように指導する。
2 本時	・それぞれの楽器が徐々に加わり，演奏されていることを知覚する。 ・このことにより音楽にどのようなよさや美しさが感じられるかを書いたり，話し合ったりする。	鑑①　雅楽「越天楽」のそれぞれの楽器の音の重なり方について記述し，このことから感じた音楽のよさや美しさについて発言したり，記述したりしている。	・雅楽「越天楽」のそれぞれの楽器の音の重なり方について明確に説明ができ，このことから感じた内容を具体的に書き，テクスチュアの視点から雅楽「越天楽」の音楽的な特徴として的確な内容を書いている	
3	・雅楽「越天楽」の音楽の特徴と背景となる文化や歴史を知り，これまで学習してきたことと関連付けながら聴く。 ・学習を振り返りながら紹介文を書き，よさや美しさを味わって聴く。	鑑②　紹介文に，自分がよいと思ったところや印象に残ったことや，音楽から想像したこと，感じたことを記述しており，その理由として，各楽器の音色や音の重なり，音楽のずれが生み出す特質や雰囲気，雅楽の背景となる文化・歴史のうち少なくとも２つの視点を用いている。	・紹介文の，自分がよいと思ったところや印象に残ったことについて理由とともに明確に記述し，音楽から想像したことや感じたこととその理由が具体的で，各楽器の音色や音の重なり，音楽のずれが生み出す特質や雰囲気，雅楽の背景となる文化・歴史についても適切に用いている。	